

AIAA ICSSC 21 Session Organizer 報告

Session Organizer 北爪 進

Session 名及び Session Chair

Session 19, Quasi-Zenith Satellite System 1 Chaired by Dr. S.Kitazume, M. Holzbock

Session 25, Quasi-Zenith Satellite System 2 Chaired by Mr. K.Toriyama, G. Gatti

日時:平成15年4月18日 午前、午後

概要

発表論文は午前6件(論文番号 AIAA-2003-2302~2307)、午後7件(論文番号 AIAA-2003-2347~2354)が登録されたが AIAA-2003-2306 The Galileo Satellite の発表者がイラク戦争による海外出張自粛のため参加されず発表されなかったのは残念なことであった。論文の国別は日本9件、米国、ドイツ、イタリア、欧州連合各1件であった。

AIAA Japan Forum が1999年8月に“準天頂衛星システム研究委員会”を発足させ日本国内の研究機関、宇宙開発関係機関、宇宙開発関係企業、衛星運用機関の参加のもと準天頂衛星システムの検討を進め検討報告書を作成した。その成果を基に、その後各機関が継続的に検討を行い平成15年度より準天頂衛星システムの開発の重要性が認められ国家予算が付くまでに検討が発展進んだことで大いなる関心を持たれた結果の現れと思う。

発表論文の内容は準天頂衛星システムの特徴を生かした通信、放送、測距などの応用システムの提案とシミュレーションに関する内容、準天頂衛星を用いた GPS Augmentation system や欧州連合の Galileo Satellite System のように GPS System の提案、準天頂衛星搭載用 programmable digital transponder、さらに準天頂衛星システムの放送用地上装置の試作結果報告まで幅広い内容であった。その為会場は発表毎に多少の出入りはあるが総じて40人~70人程度の聴衆の参加を得て質疑も活発に行われた。

最優秀論文としては Chair の一人である German Aerospace Center の Dr. Holzbock の強い推薦もあり GPS を信号源とした都市、高速道路、ルーラルエリアなどでの Satellite visibility の検討を示した「AIAA 2003-2304 Geographical Patterns of Satellite Visibility Viewed from Running Vehicle」 Presented by Mr. M. Takahashi CRL を選定し AIAA に報告した。

感想

論文 AIAA 2003-2307 は再三の要請を出したが最後まで On-line 登録に up-load されず発表されないのかと危惧したが当日発表者 Mr. Subekuti が会場に現れたので事情を説明し速やかに up-load することを要請し当日の発表を許可した、最後に Session が成功裏に終了出来たことはイラク戦争、SARS 問題にも拘わらず海外より Chair として、又発表者としてご参加頂いたこと、国内の関係者のご協力があったことに感謝します。